

## はじめに

校長 飯塚 庫健

令和5年度校内研究では、「主体的に伝え合い、学び合う児童の育成～充実した言語活動を通して～」と研究主題を設定し、研究を行ってきました。

「チーム学校」としての本校の強みを生かして、研究主任を中心に子どもたちの学びの変容、実態を踏まえ、昨年度に引き続き国語科（話すこと・聞くこと）に焦点を絞って、研究実践に取り組んでまいりました。

日々の教育活動の中で、知恵を出し合い工夫しながら時間を作り、お互いの授業を見合い、学年・分科会での実践を通じた教材研究、そして活発な意見交流では、どの分科会も指導者一人一人が自分事として捉え、授業改善に努めました。

その結果、一步一步、着実に教室が安心して学習に臨むことができる温かい環境として機能し、根付いてきたことも本研究の成果だと考えています。

研究を進めるに当たっては、「話すこと・聞くこと」をご専門に研究されている東京都小学校国語教育研究会顧問の邑上裕子先生からご指導をいただきました。

また、特別支援教育の視点からの授業改善では、明星大学心理学部心理学科の小貫悟先生からご指導いただき、ユニバーサル・デザインの視点を取り入れた授業改善が何故有効なのか、できるだけ本校の実態に合わせご指導いただくなど、大変ありがたいことでした。

この「話すこと・聞くこと」の研究は、本校の教育重点目標「よく考える子」に直結するものです。私は本校の校長として、校内研究を推進し、先人から受け継いだ「規律の中の自由」を目指した望ましい生活習慣の定着にも取り組んでいきたいと考えております。

研究を進めている中で嬉しく感じるものの一つに、日常の学校生活における子供たちの言動や姿にもその変容を感じることです。

それは、本校の教職員一人一人が、着実に本研究で得た知見を日々の実践に生かしていくことができた証だと感じています。そして、教員それぞれの指導力向上に繋がると同時に、子供一人一人の力をさらに高めていくことにも繋がっていただければと考えます。

最後に、今年度の研究について、ここに研究紀要という形でまとめることができました。多くの皆様にさらなるご指導、ご鞭撻をお願い申し上げます。

結びになりますが、東大和市教育委員会教育長岡田博史様をはじめ多くの先生方にご指導を受けたこと心より感謝申し上げます、はじめのあいさつとさせていただきます。